

牛深港周辺地域活性化構想



令和 5年 3月
天 草 市

目次

第1章 構想策定の背景と位置付け

1 構想策定の背景	1
2 構想の位置付け	2

第2章 牛深地域の現況と課題

1 牛深地域の現況	3
(1) 人口及び世帯数の推移	3
(2) 商業の動向（事業所数、従業員数の推移）	4
(3) 漁業の動向（経営体数の推移）	5
(4) 宿泊施設軒数及び宿泊者数の動向	6
(5) 旅客・車両輸送実績の推移	7
(6) 市政アンケートからみる牛深地域住民の所感	8
2 牛深港周辺地域の概要	10
(1) 牛深港周辺地域へのアクセス	10
(2) 周辺観光施設の立地状況	12
(3) 牛深中心市街地及び周辺地域の状況	13
3 牛深地域の課題	15
(1) 人口減少と少子・高齢化の進展	15
(2) 経済状況の変化	15
(3) 市民ニーズの多様化	15
(4) 地理的条件	16
(5) 既存施設が持つ課題	16

第3章 基本構想

1 基本構想の概要	19
(1) 基本構想の対象エリア	19
(2) 基本目標・基本方針・基本施策	21
2 具体的な展開施策	24
(1) 具体的な施策1 牛深港周辺地域（旧漁協周辺）の再開発	24
(2) 具体的な施策2 うしぶか海彩館の機能充実	27
(3) 具体的な施策3 うしぶか公園・遠見山公園の魅力の開発 ・鬼塚地区緑地広場の整備	30
(4) 具体的な施策4 街並みの整備	32

第1章 構想策定の背景と位置付け

1 構想策定の背景

天草市南部に位置する牛深地域は本市の南の玄関口に位置し、天然の良港を形作っていることから歴史的に物資流通の中継基地としての役割を果たすとともに、県内最大の水産基地として発展を遂げてきました。

しかしながら、基幹産業として地域経済を牽引してきた水産業は、水産資源の減少、後継者不足などにより低迷した状態が続き、ハイヤ節発祥の地としても知られ人情豊かな港町の賑わいを誇っていた街並みは、商店街に空き店舗、空き地が目立ち、少子高齢化・人口減少も進行しております。

このような中、牛深地域が抱える課題の解決や公共施設の老朽化対策など地域の活性化を図ることを目的に、牛深町の中心に位置する旧漁協跡地から「うしぶか海彩館」に至る牛深港周辺地域の整備、公共施設の再編を主な内容とする検討を行い、令和3年2月に「牛深港周辺整備基本構想」を策定しました。

この「牛深港周辺整備基本構想」は、市が示した基本構想素案に対しワークショップを通じて収集した市民の意見を取りまとめ、その意見を踏まえた天草市の考え方を述べたものとなっております。構想の中核となる整備の項目については構想素案に留まった形となっております。市民の皆様からは、旧漁協跡地の開発や「うしぶか海彩館」の在り方、港内の海上活用など様々なご意見をいただきました。また、市民グループから牛深町鬼塚地区の埋立地の活用についての提案があるなど、『牛深を良くしたい、元気にしたい』という市民の皆様への地域活性化に対する気持ちの高揚を感じとることが出来ます。

特に、近年では、市民グループによる「牛深ハイヤ大橋」や「うしぶか公園」のカラーライトアップやうしぶか海彩館での新たなイベントの開催など、既存施設を活用した取り組みが活発に行われております。

以上の現状や課題及びこれまでの経緯、並びに市民の皆様からのご意見や様々な取り組み等を踏まえ、「牛深港周辺整備基本構想」でお示した旧漁協跡地から「うしぶか海彩館」に至るエリアの整備内容等の見直しを行うとともに、「うしぶか公園」、「遠見山」など、この地域の恵まれた自然景観や海洋自然等の地域資源、古くから伝わる歴史・文化など地域が持つ素材を活かし、埋立地等の未活用用地の有効利活用にも視点を置いた地域活性化構想を策定します。

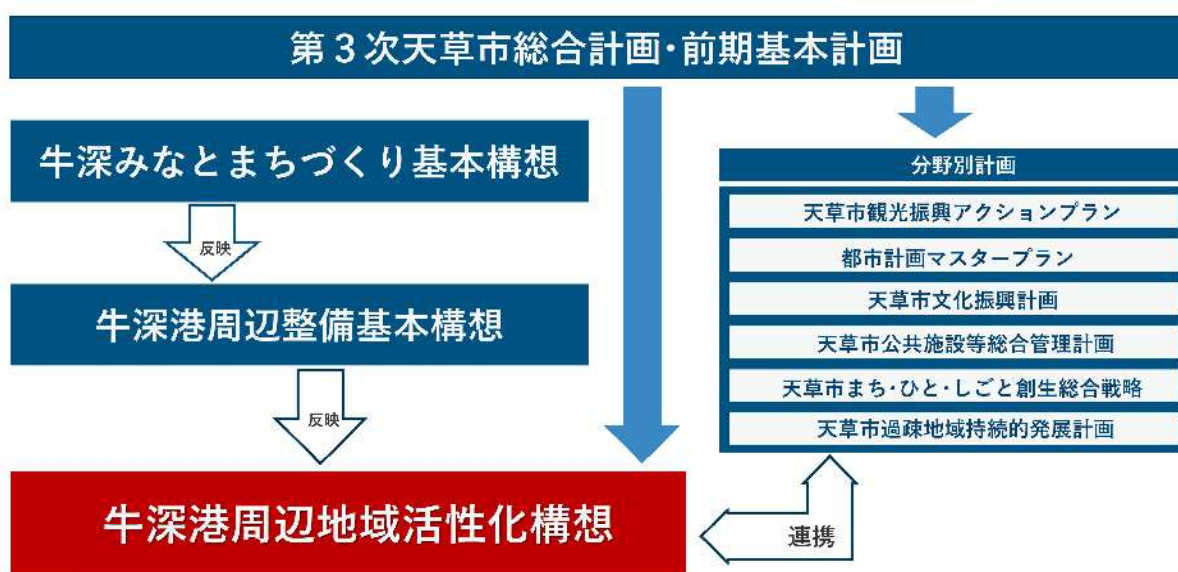
最後にこの構想は、天草市の南の玄関口である牛深に人が集まり、物が動く仕組みを作り牛深地域の活性化に結び付けることを目的として策定するものですが、天草市総合計画に搭載される各種施策との連携を図り、この構想で実施する様々な取組の効果を天草市全体へ波及させることを目指すこととします。



2 構想の位置付け

本構想は、天草市総合計画を上位計画とし、同計画の理念、方針に沿った形で策定するものであり、同計画をより具体的に示した関係分野別計画及び「牛深みなとまちづくり基本構想」及び「牛深港周辺整備基本構想」とも連携・反映を図るものとします。

位置づけ



第2章 牛深地域の現況と課題

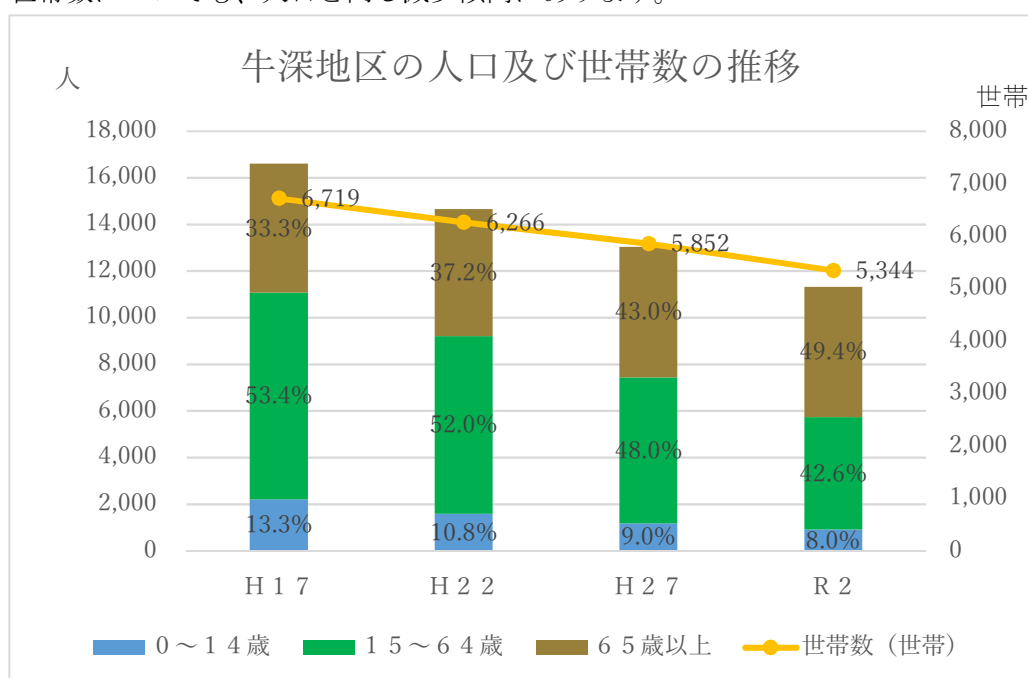
1 牛深地域の現況

(1) 人口及び世帯数の推移

牛深地域の人口は、平成17年から令和2年まで15年間で約5千人（約32%）減少しています。

特に労働人口の流出が大きく影響していると考えられ、少子・高齢化を進行させる要因にもなっており、高齢化率は令和2年時点で50%に迫っています。

世帯数についても、人口と同じ減少傾向にあります。



(1) 牛深地区の人口及び世帯数

		平成17年度	平成22年度	平成27年度	令和2年度
天草市	人口(人)	96,473	89,065	82,739	75,783
	H17比率 (%)	100	92	93	79
	世帯数(世帯)	35,426	34,272	33,224	31,873
	H17比率 (%)	100	97	94	90
牛深 年齢区分	人口(人)	16,609	14,669	13,031	11,313
	H17比率 (%)	100	88	78	68
	0～14歳	2,206	1,585	1,179	908
	15～64歳	8,870	7,621	6,255	4,821
	65歳以上	5,533	5,449	5,597	5,584
	世帯数(世帯)	6,719	6,266	5,852	5,344
H17比率 (%)	100	93	87	80	

【牛深地域の人口及び世帯数の推移 (資料：国勢調査)】

(2) 商業の動向（事業所数、従業員数の推移）

牛深地域の商業（卸売・小売業）事業所数、従業員数の推移を見ますと、ともに年々減少しています。従業員数にあつては、平成18年から平成28年までの間で、3割を超える減少となっています。



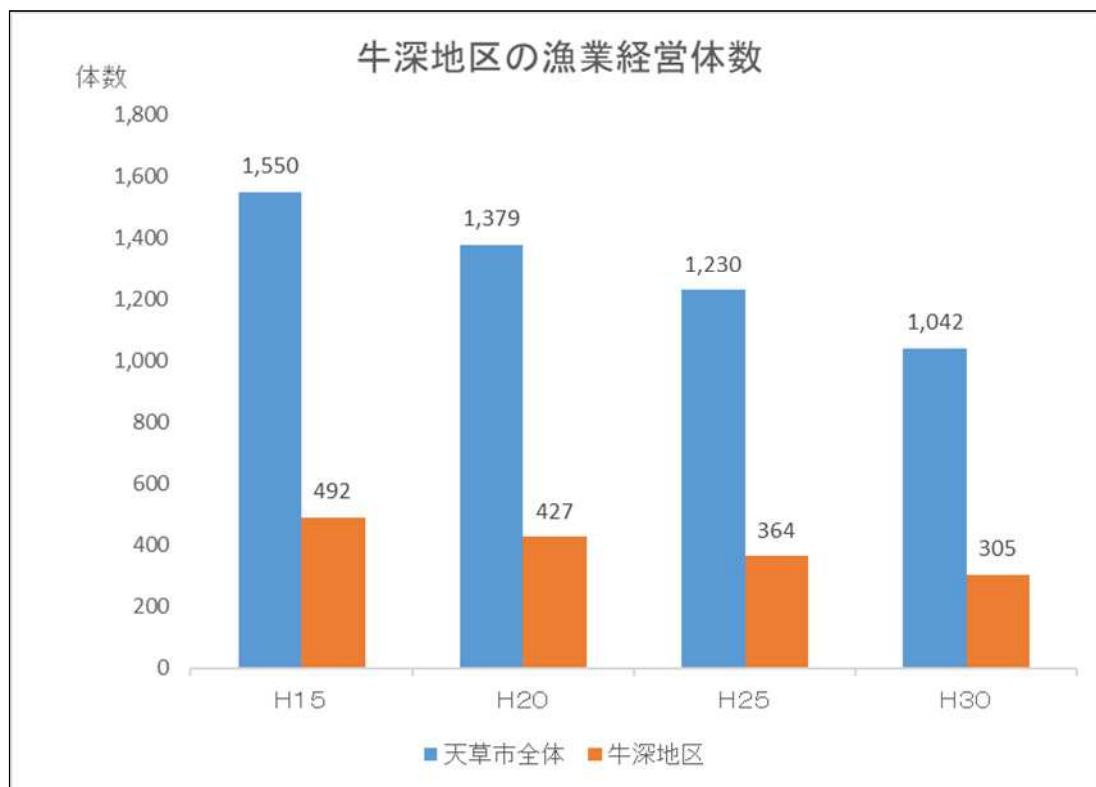
	天草市全体				牛深地区			
	従業員数		事業所数		従業員数		事業所数	
	人	平成18年比率	箇所	平成18年比率	人	平成18年比率	箇所	平成18年比率
平成18年度	8,515	100.0%	1,882	100.0%	1,308	100.0%	322	100.0%
平成21年度	8,197	96.3%	1,765	93.8%	1,166	89.1%	294	91.3%
平成24年度	7,546	88.6%	1,636	86.9%	1,100	84.1%	278	86.3%
平成26年度	7,222	84.8%	1,545	82.1%	1,035	79.1%	254	78.9%
平成28年度	6,910	81.2%	1,463	77.7%	881	67.4%	233	72.4%

【牛深地域の卸売・小売事業所、従業員数の推移】

(資料：事業所・企業統計調査、 経済センサス-基礎調査・活動調査)

(3) 漁業の動向（経営体数の推移）

牛深地域の漁業経営体数の推移を見ますと年々減少しています。平成15年から平成30年までの15年間で約6割にまで減少していますが、それでも天草市全体の約3割を占めています。



(単位:経営体数)

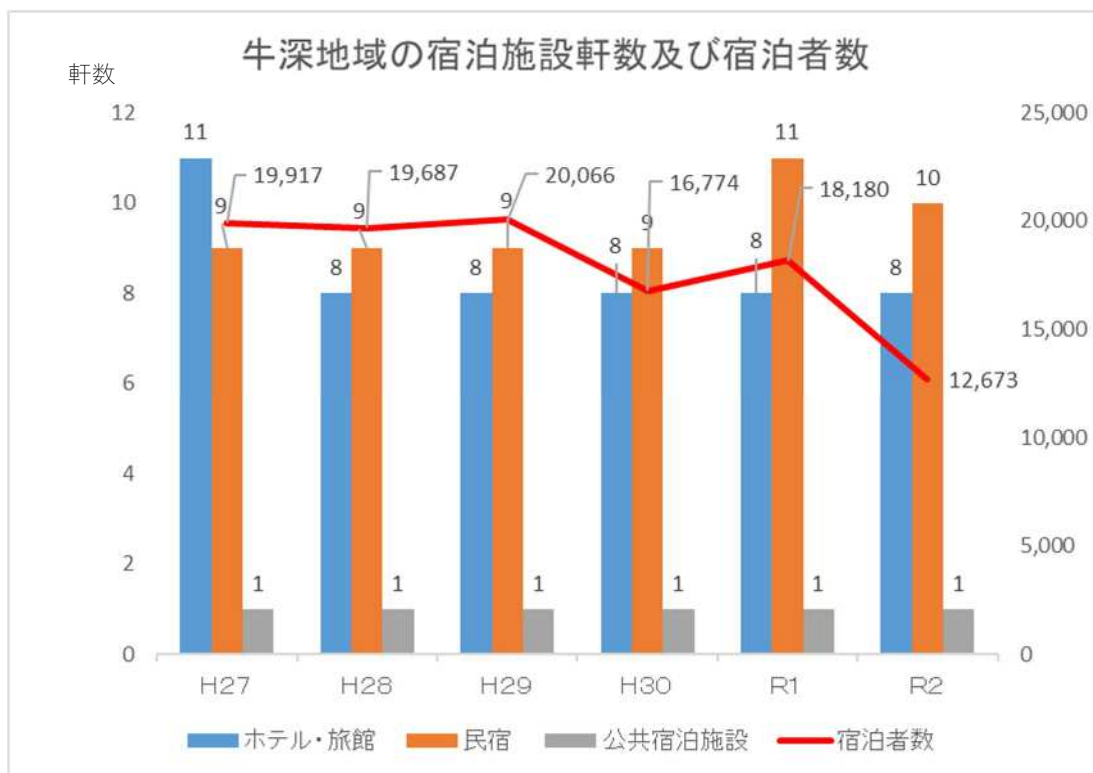
	天草市全体		牛深地区	
	経営体数	平成15年比率	経営体数	平成15年比率
平成15年度	1,550	100%	492	100%
平成20年度	1,379	89%	427	87%
平成25年度	1,230	79%	364	74%
平成30年度	1,042	67%	305	62%

【牛深地域の漁業経営体数の推移 (資料:漁業センサス)】

(4) 宿泊施設軒数及び宿泊者数の動向

牛深地域の宿泊施設軒数は、平成27年度からほぼ横ばいの状況が続いていますが、民宿の軒数は増加しています。

宿泊者数は、ほぼ横ばいで推移していますが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、減少しています。



牛深地域の宿泊施設軒数・宿泊者数

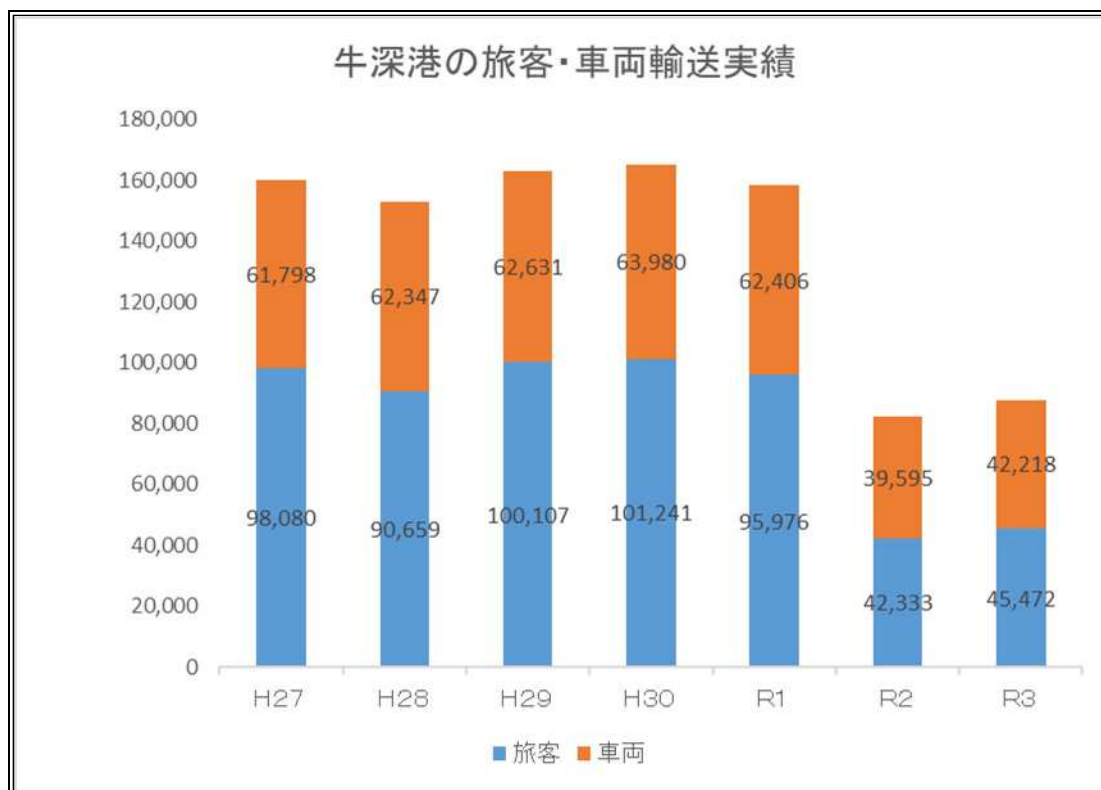
	ホテル・旅館 (収容人数:165人)	民宿 (収容人数:152人)	公共宿泊施設 (収容人数:56人)	宿泊者数
平成27年度	11	9	1	19,917
平成28年度	8	9	1	19,687
平成29年度	8	9	1	20,066
平成30年度	8	9	1	16,774
令和元年度	8	11	1	18,180
令和2年度	8	10	1	12,673

【資料：天草市観光振興課】

※収容人数は、令和4年10月調べ

(5) 旅客・車両輸送実績の推移

牛深港の旅客・車両輸送実績の推移を見ますと、平成27年以降の5年間は横ばいで推移していますが、令和2年度からは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、減少しています。



(5) 牛深港の旅客・車両輸送実績の推移

	旅客		車両	
	人数	平成27年比率	台数	平成27年比率
平成27年度	98,080	100%	61,798	100%
平成28年度	90,659	92%	62,347	101%
平成29年度	100,107	102%	62,631	101%
平成30年度	101,241	103%	63,980	104%
令和元年度	95,976	98%	62,406	101%
令和2年度	42,333	43%	39,595	64%
令和3年度	45,472	46%	42,218	68%

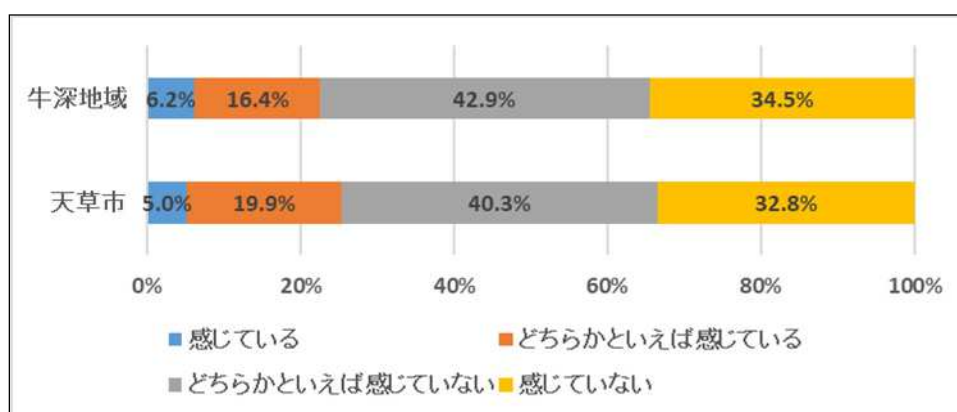
【資料：天草地域公共交通輸送実績】

(6) 市政アンケートからみる牛深地域住民の所感

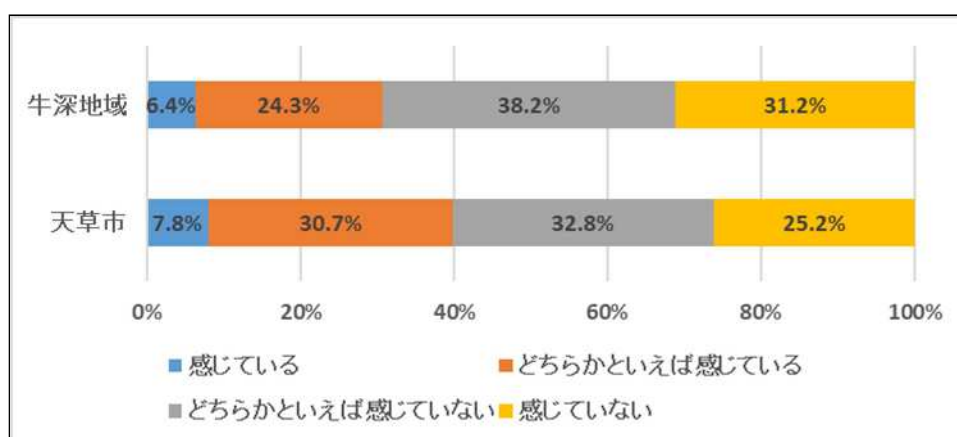
令和3年度に実施された「市政アンケート」の牛深地域の結果を見ますと、日頃、芸術や文化に触れる（鑑賞する）機会や年代に応じた学習の機会も少ないと感じていることが伺えます。

また、高齢者に対する福祉サービス、子育て支援サービスについては「分からない」という意見が多く、行政サービスはあるものの、認知が進んでいない状況も伺えます。

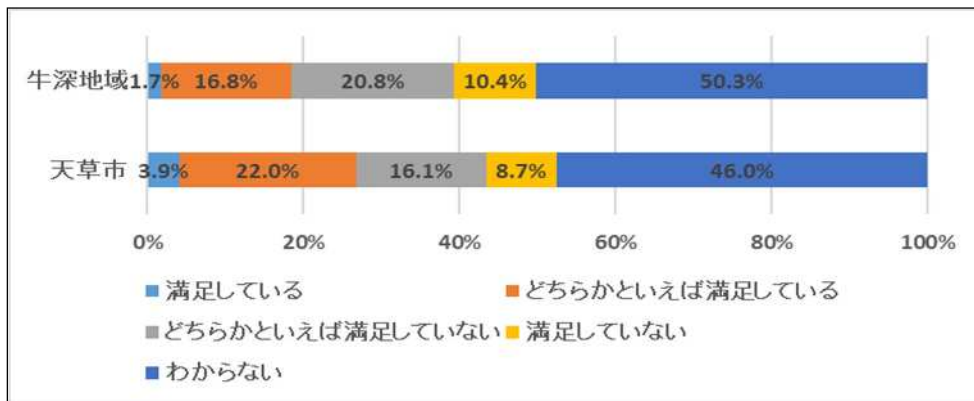
【問】日頃、芸術や文化に触れる（鑑賞する）機会があると感じていますか？



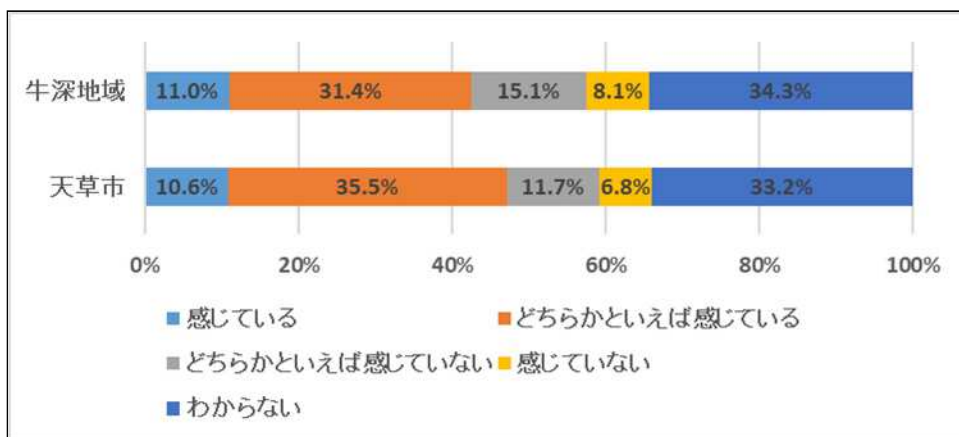
【問】年代に応じた学習の機会があると感じていますか？



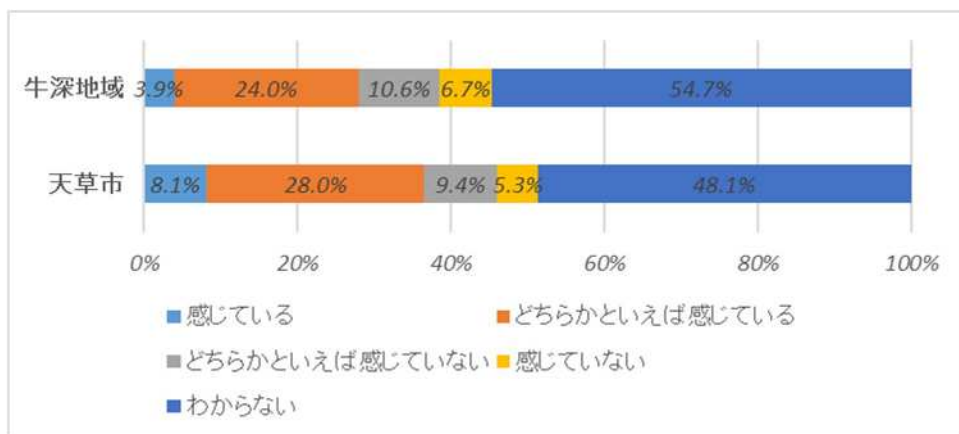
【問】市が実施している生涯学習の機会（講演、講座、セミナーなど）や情報提供に満足していますか？



【問】市が実施している高齢者に対する福祉サービスは充実していると感じていますか？



【問】市が実施している子育て支援サービスは充実していると感じていますか？



2 牛深港周辺地域の概要

(1) 牛深港周辺地域へのアクセス

天草市の南に位置する牛深港は、鹿児島県長島町の蔵之元港と牛深港を約30分で結ぶフェリーの運航により、年間約16万人が往来する本市の南の玄関口となっています。

自動車を利用する場合、熊本市内から天草五橋を経由すると所要時間は約3時間30分です。



鹿児島市内から現在延伸中の南九州西回り自動車道（八代を起点として水俣市、薩摩川内市を経由して鹿児島市に至る高規格道路）を経由すると長島町まで約2時間、鹿児島空港からも同じく長島町まで約2時間となっており、この行程にフェリーの所要時間30分を足すと2時間30分の距離にあります。



鹿児島県HPから

現在、前頁の南九州西回り自動車道の他、北薩横断道路（鹿児島空港から阿久根市の南九州西回り自動車道阿久根北 I C 付近に至る予定の地方高規格道路）の整備が着々と進んでおり、さらなる時間短縮が図られることから、鹿児島方面からの来訪者の増加が見込まれます。

九州新幹線を利用した場合は、鹿児島県出水駅から蔵之元港間のシャトルバス、フェリーを利用しますと、約1時間30分で牛深港に到着することができます。

なお、牛深港から世界文化遺産に登録された崎津集落までは、自動車ですら約30分の距離にあります。



さらに、近年、「にっぽん丸」「ぱしふいっくびいなす」といった国内大型客船が日本一周クルーズや九州沖縄クルーズの寄港地として牛深港沖に停泊し、乗船客が天草市内の観光地を周遊するプランが展開されておりました。令和2年度以降は新型コロナウイルスの感染拡大により寄港はありませんが、収束後には、世界遺産である崎津集落に近い牛深港への寄港回数増加に向けた誘致活動や受入れ体制の充実などの取り組みを行うことで、来訪者の増加に繋がる可能性があります。

(2) 周辺観光施設の立地状況

牛深地域には、うしぶか海彩館、牛深ハイヤ大橋と言った観光施設、観光に寄与する施設が立地しています。

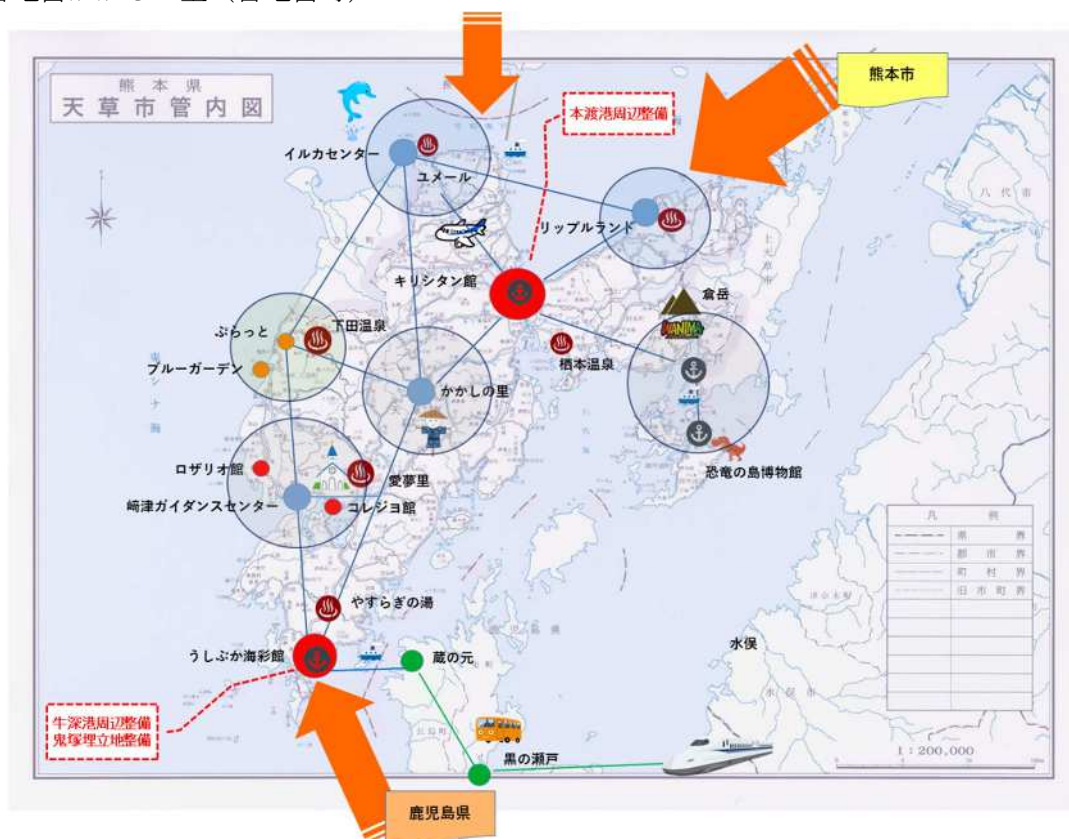
また本市においては、世界文化遺産「天草の崎津集落」をはじめ、天草キリシタン館、天草コレジヨ館、天草ロザリオ館・大江教会・崎津教会といったキリシタン文化を学べる歴史文化施設が数多く存在しています。

この他にも、イルカウォッチング、天草夕陽八景、500体を越える「かかし」、天草陶磁器など、観光素材にも事欠かないところですが、このような市内観光ポイントへの周遊を促し滞在時間の延長を図るため、観光拠点施設として5つの道の駅を設置しています。

牛深港周辺地域活性化事業に取り組むにあたっては、道の駅・海の駅であるうしぶか海彩館を起点として、市内観光拠点や既設「道の駅(5駅)」と連携し、人流や交流をより展開していくことが重要であると考えられます。

【道の駅に関する参考データ】

- ◆全国 1, 198 駅(令和4年8月5日時点)
- ◆熊本県 35 駅
- ◆天草市 5 駅
 - ・有明(有明町) ※リップルランド
 - ・うしぶか海彩館(牛深町)
 - ・崎津(河浦町) ※崎津ガイダンスセンター
 - ・天草市イルカセンター(五和町)
 - ・宮地岳かかしの里(宮地岳町)



(3) 牛深中心市街地及び周辺地域の状況

牛深地域は、恵まれた海洋資源や藍より青い海からなる景観を有し海洋都市として発展してきました。また、牛深ハイヤ節を代表とする歴史文化遺産も色濃く、漁業集落のせどわ、日本の女性で初めてドクトル・メディツィーネを取得された宇良田タダ氏ゆかりの蔵など、牛深の中心街に今も多く点在しています。

牛深の中心市街地は歩ける範囲に商店街、市役所等の行政機関、銀行、商工会議所、郵便局などの都市機能が集中し、コンパクトな市街地が形成されています。

うしぶか海彩館が位置するエリアは、フェリー発着場が設置されるなど、天草市の南の玄関口としての位置づけがされており、交通の要衝である他、観光振興や港まちづくりの拠点、情報発信基地としての役割を担っています。

牛深ハイヤ大橋沿いにあるのは、国土交通省により「みなとオアシス」エリアとして登録されており、海側は漁港として遊漁船や漁船に係留されるほか、駐車場や芝生広場が整備されているエリアでは、牛深ハイヤ祭りや牛深あかね市を代表とする各種イベント会場として活用されるなど、港の賑わいを醸し出しています。

また、うしぶか海彩館の対岸にあたる台場地区は、漁協の水揚げ施設、冷蔵庫、製氷施設が整備され、牛深の基幹産業である水産業の基地としてその役割を果たしてきました。しかし、平成27年に漁協の機能は後浜の新漁港に移転しており、その後の利活用はされていない状況にあります。

牛深港から見て北側には遠見山が牛深市街を見下ろし、さらに西側には小中学校や市民病院やグラウンドが位置しています。

一方で、牛深港周辺地域には商店街が立地しており、街中には牛深図書館や牛深地区のコミュニティセンターが設置されています。さらに、市街地の周辺には茂串海水浴場や砂月海水浴場、日本で初めて認定を受けた海域公園など美しい自然景観が広がっています。

なお、牛深港周辺は、都市計画区域となっており、中心商店街は土地区画整理事業により整備されています。



【牛深港周辺都市計画図】

3 牛深地域の課題

牛深地域の現況と牛深港周辺地域の概要を踏まえ、牛深地域における基本的な課題を以下の5つの視点から整理します。

(1) 人口減少と少子・高齢化の進展

牛深地域においては、全国を上回る急速なペースで、人口減少、少子高齢化が進んでいます。

特に、労働人口の流出が大きく影響していると考えられることから、新たな雇用の場を創造することが必要です。

(2) 経済状況の変化

牛深地域の商業（卸売・小売業）における従業員数、事業所数ともに減少が続いており、働く場が無い、また働き手がないという状況下にあることが伺えます。

漁業経営体数においても、天草市全体の約3分の1を占めるなど、主要漁業基地として重要な位置を占めるものの、減少の一途をたどっており、後継者不足が深刻な状況にあります。

また、観光入込客数においても、平成27年度に上昇に転じたものの、平成28年に発生した熊本地震の影響もあって、以降減少に転じており、このことは、牛深港の旅客利用者数の減少にも起因しています。

宿泊受入についても、近年の旅行ニーズが団体旅行から個人旅行に転じる中、その個人宿泊の受け入れとなるビジネス型ホテルが乏しい状況にあります。イベント開催時には、宿泊を必要とする客がオーバーフローする傾向が常態化し、その受け皿となる近隣地域への宿泊についても、天草島内も崎津集落の世界文化遺産登録を機に宿泊客が増えていることから、難しくなっている現状にあります。

牛深の景気浮揚は、中心市街地における賑わいの創出に寄るところが大きく、同市街地を含む周辺地域の活気あるまちづくりが必要です。

(3) 市民ニーズの多様化

市政アンケートによると「日頃、芸術や文化に触れる機会があると感じない」という意見が多く見られます。また、生涯学習への満足度も低調で、「年代に応じた学習の機会があると感じていますか」という問いについては「どちらかといえば感じていない・感じていない」という意見が7割を占め、「市が実施している生涯学習の機会（講演、講座、セミナーなど）に満足していますか」という問いについては「わからない」という意見が5割以上を占める状況にあります。

それぞれの点において、行政サービスは存在するものの、認知度の低さ、また市民の行政に対するニーズの多様化から、満足度が低調になっているものと思われます。

また、令和2年に実施された「牛深港周辺整備基本構想（素案）」における住民ワークショップでは、「図書館を作るとしても、普通のものではなく人が呼べる図書館を目指すべき」や

「複合施設ならば、児童館を含めることはできないか」と言った意見が出ています。観光拠点等に関しても「うしぶか海彩館の機能を見直し、物産館機能を強化すべき」、「うしぶか海彩館においてソフト面（新たなアクティビティ）を充実させる」との意見や、台場地区に対しては、「観光・商業ゾーンとして観光客の受け皿となる商業施設、観光拠点、経済の中核となる施設をつくるべき」などの提案があります。

今後において、市民の学びや相談、様々なコミュニティ活動などの市民のニーズに弾力的かつ効果的に対応しうる、使い方を限定しない、人々が気軽に集える多目的な拠点整備を図る必要があります。

（４）地理的条件

牛深地域は、天草市の南端に位置し、熊本市内から天草五橋を経由した場合、車で約３時間 30 分を要する地にあります。

このような中、平成 23 年 3 月 12 日に九州新幹線が開業し、鹿児島方面においては、南九州西回り自動車道や北薩横断道路の整備が着々と進むなど、牛深地域をとりまく道路交通網は着実な進展を見せています。また、近年では国内大型客船の寄港が増加するなど、世界文化遺産登録となった崎津集落へ向かう天草市の南の玄関口として、魅力ある拠点を創出すると共に、受入れ体制を充実させ、来訪者の増加に繋げる必要があります。

（５）既存施設が持つ課題

本市の課題に、合併後の 1 つの市として公共施設の保有量が多いことが挙げられます。

このような中、天草市公共施設等総合管理計画では、公共施設等の管理に関する基本的な考え方を示し、保有量の縮小や長寿命化の推進を図ることとしております。

牛深地域には、観光の拠点となるうしぶか海彩館をはじめ、生涯学習を担う図書館や屋内スポーツの拠点となる牛深総合体育館、市民の憩いの場であるうしぶか公園など多様な施設が存在しています。

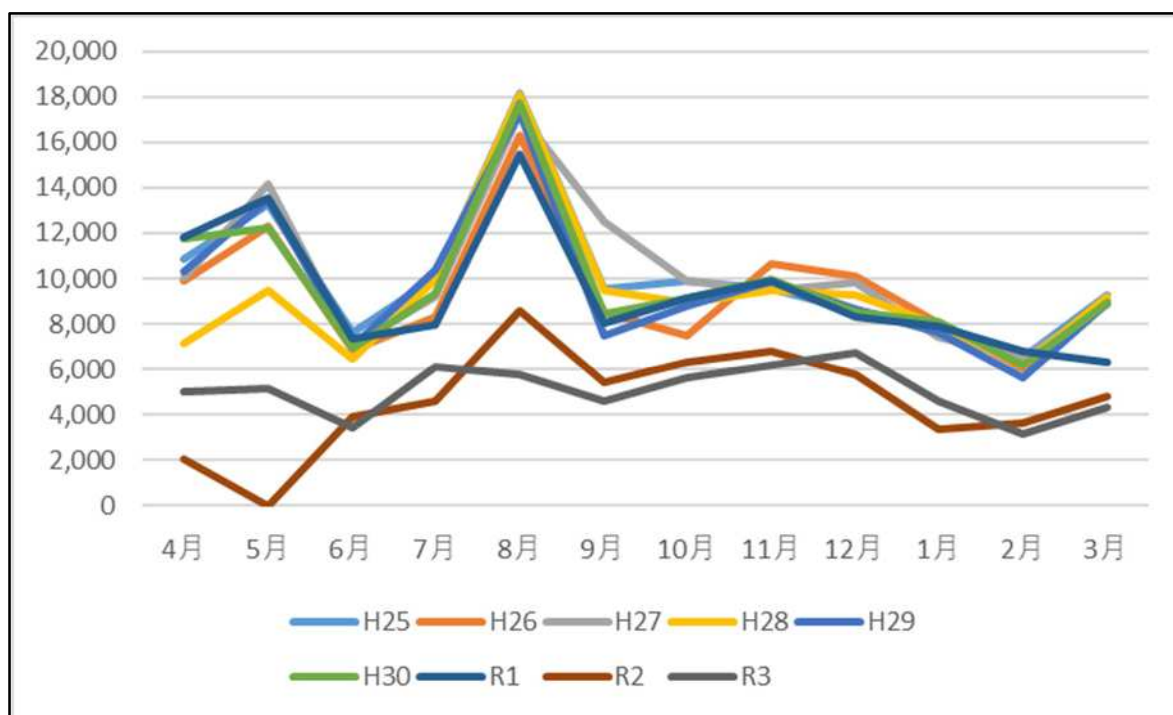
今後、必要とされる施設についても時代とともに求められるサービスが変化していることから長寿命化や複合化など効率的、効果的な配置について検討を進める必要があります。

特に、うしぶか海彩館は、経年劣化により不具合が生じている箇所も多くみられており、牛深図書館は、室内が狭く学習スペースがとれていないなど、改修・改善が急がれる状況にあります。

◆うしぶか海彩館

- ・ニーズの変化により、集客が少ない、または利用されていない部屋がある。
- ・集客率が低い（さかな道場、漁師村、魚図書館、資料館）。
- ・あかね棟の1階、2階は壁に囲まれない空間となっており、近年の地球規模の温暖化の影響からか、夏は猛暑、冬は雪が降るなどのことから、休憩所やバスやフェリー利用者の待合所としての利用に支障をきたしている状況がある。
- ・あかね棟2階が暗いなどの意見がある。
- ・あかね棟1階の生け簀に魚が泳いでいない時期があり、生け簀の魅力が活かされていない。
- ・管理棟の漁具等の展示資料館の認知度が低い（知らない人が多い）。
- ・位置的なものなのか、施設の機能が十分に発揮されていない（ハイヤ展示館）。
- ・駐車場が敷地内に点在し分かりにくく、かつ、狭小な状況で駐車台数も少ない。
- ・施設全体に、経年劣化が見受けられる（特に屋根、屋外電気機器類など）。

《利用状況》



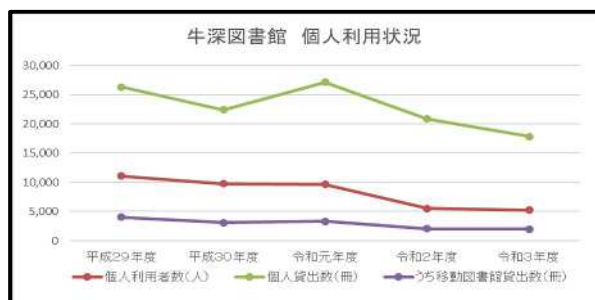
年度\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25	10,823	13,258	7,618	10,024	18,150	9,578	9,927	9,523	8,580	7,943	6,552	9,300	121,276
H26	9,920	12,321	6,836	8,321	16,325	8,508	7,469	10,652	10,103	8,002	6,052	8,966	113,475
H27	10,045	14,138	7,053	9,220	17,236	12,522	9,906	9,484	9,795	7,441	6,539	8,845	122,224
H28	7,141	9,511	6,420	9,989	18,106	9,493	8,900	9,493	9,267	7,956	6,188	9,210	111,674
H29	10,301	13,440	6,979	10,366	17,351	7,464	8,778	9,882	8,668	7,640	5,648	8,902	115,419
H30	11,772	12,251	6,953	9,335	17,721	8,480	9,127	9,965	8,495	8,102	6,199	8,921	117,321
R1	11,789	13,524	7,321	7,952	15,449	8,069	9,150	9,921	8,326	7,865	6,766	6,308	112,440
R2	2,080	0	3,889	4,600	8,587	5,392	6,316	6,781	5,795	3,385	3,640	4,833	55,298
R3	5,016	5,116	3,391	6,100	5,765	4,581	5,654	6,179	6,693	4,611	3,174	4,300	60,580

【うしぶか海彩館 月別レジ通過者数（単位：人）】

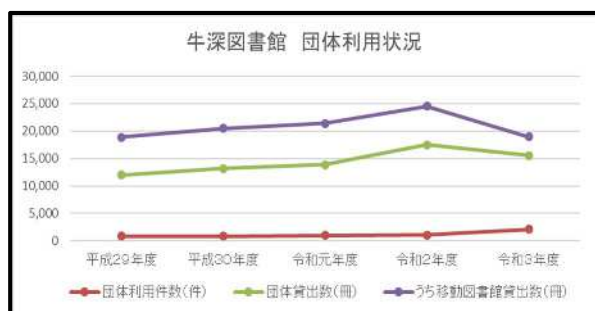
◆牛深図書館

- ・開架部分が延床面積 124 m²と狭小で、閲覧席が 12 席しかなく、席の間隔も狭い。
(新型コロナウイルス感染症対策時では、4 席のみを使用。)
- ・書架と書架の間が狭く、車椅子利用など通りにくい。
- ・学習室がなく、学習できるスペースも少ない。
- ・もともと閉架書庫が作られていないため、図書の保管に適していない総合センター内の 3 部屋を閉架書庫として使用している (2 部屋は総合センターとの共用)。
- ・閉架書庫は埃、湿気があり、本にカビが発生した (2018 年 6 月蔵書点検時に発見)。
- ・備え付けの古い書架は奥行きがありすぎて使いづらい。
- ・総合センター事務所の先に図書館があるので、場所が分かりにくい。
- ・図書館と図書館事務室が離れている。
- ・総合センターで催し物があると、図書館利用者が駐車場を使えない時がある。

【利用状況】



	蔵書数(冊)	個人利用者数(人)	個人貸出数(冊)	うち移動図書館貸出数(冊)
平成29年度	43,582	11,045	26,311	4,051
平成30年度	43,242	9,751	22,366	3,103
令和元年度	45,536	9,644	27,136	3,316
令和2年度	45,983	5,530	20,875	2,063
令和3年度	45,672	5,237	17,821	2,007



	蔵書数(冊)	団体利用件数(件)	団体貸出数(冊)	うち移動図書館貸出数(冊)
平成29年度	43,582	817	11,180	6,893
平成30年度	43,242	865	12,336	7,271
令和元年度	45,536	949	12,935	7,531
令和2年度	45,983	1,066	16,442	7,035
令和3年度	45,672	2,069	13,503	3,392

【牛深図書館 年度別利用状況】

第3章 基本構想

本章では、牛深地域の現況や課題を踏まえ、本地域の水産関連産業の振興と地域が持つ歴史・文化・自然などの資源の活用、既存公共施設の再配置や機能の充実、未活用となっている用地の開発に視点を置いた牛深地域の活性化に関する基本構想を示します。

1 基本構想の概要

(1) 基本構想の対象エリア

牛深地域は、古くから新鮮な海の幸、藍より青い海からなる海洋景観にも恵まれ、漁業や海面養殖、大手食品メーカーがスープの原料に使用している雑節の生産をはじめとした水産加工業など、海にまつわる産業を中心に発展を遂げてきた歴史があります。また、牛深港を中心にハイヤ系民謡の源流である牛深ハイヤ節などの歴史文化を育んだ地でもあります。

その中でも、みなとオアシス、道の駅、海の駅でもあり、「くまもとアートポリス」の洗練されたデザインを持つ『うしぶか海彩館』は、フェリーやバスが発着する交通の要衝となっており、天草市の南の玄関口として多くの人が行き交う場所となっています。この周辺には、同じく「くまもとアートポリス事業」に採択された牛深ハイヤ大橋もあり、対岸の旧牛深漁協跡地を含め町の中心市街地に立地するこのエリアは、再開発により新たな事業の創造と雇用が生まれ、観光客のみならず、地元住民の利用が増えることによる経済効果が期待できる場所です。

また、牛深町の市街地を見渡せる遠見山は、古くは遠見番所として狼煙台の機能を持つなど、異国からの不審船監視地として歴史的重要な場所でありました。現在は、山頂には「すいせん公園」、山の中腹には「うしぶか公園（日本庭園）」などが整備されるなど市民の憩いの場としてはもとより、多くの観光客が訪れる場所となっています。日本庭園にあっては、令和3年度に地元住民の手によりカラーライトアップがなされ、日中のみならず夜も多くの観光客で賑わいを見せたところであり、平成30年から始まった牛深ハイヤ大橋のカラーライトアップとともに牛深観光の新たなスポットとしての魅力を秘めています。さらに、中腹にあるアスレチック広場においては、子供が遊べる遊具を中心とした整備がなされており、近隣の鹿児島県北薩地域（阿久根市など）をはじめとした市内外のファミリー層が訪れる場となっています。

この基本構想では、牛深地域が持つ特色や地域資源を活かし、様々な取組を行う対象エリアを、牛深港周辺は来訪者との交流や海洋文化を学べる拠点として、遠見山周辺を人が集い安らぎを提供する空間として位置づけることで、地域の総合的な賑わいと交流を増進させ、牛深地域全体の活性化を図ることとします。

具体的には、「牛深みなとまちづくり基本構想」で示す「港交流ゾーン」、「海の駅ゾーン」は「エントランスゾーン」と「プレジャーゾーン」として、遠見山周辺地域は「リラックスゾーン」として、それぞれの魅力が相互に絡み合う空間利用に重点を置いた「牛深地域活性化構想」としてゾーンを設定します。

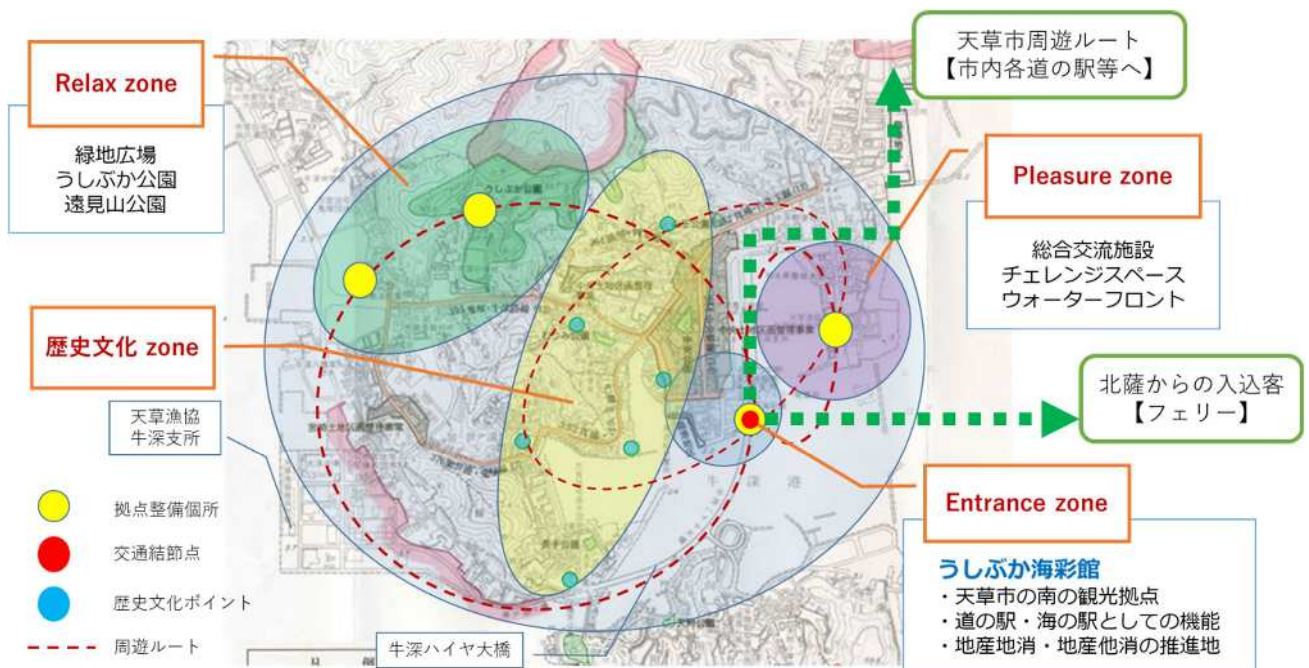
【牛深みなとまちづくり基本構想のゾーニング】

区分	方向性
牛深港周辺地区	牛深港を中心に周辺地域と連携し、集客効果を牛深地域全体へ波及させていく
ふれあい交流ゾーン	イベント開催や憩いの場所として活用するゾーン
港交流ゾーン	船舶の停泊や車の駐車等、来訪者の起点として活用する。また、朝市や加工販売等によるおもてなしのゾーン
海の駅ゾーン	来訪者が楽しめるゾーン
まちなかゾーン	ハイヤ通りを中心とした牛深のまちなか散策を楽しむゾーン
牛深地域	牛深の観光地（遠見山展望所や茂串海水浴場等）との連携を強化し、牛深地域全体の活性化を図っていく

※牛深みなとまちづくり基本構想（平成25年作成）

牛深港周辺の在り方について県への提案書としてまとめられた構想

【牛深地域活性化構想のゾーニング】



(2) 基本目標・基本方針・基本施策

ア 基本目標

天草市の南の玄関口に位置し、交通の結節点である牛深港周辺地域を交流や海洋文化の拠点として、また、もう一つの人が訪れる場所である遠見山周辺地区を人が集い安らぎを提供する空間として整備し、「海（海洋景観、海洋資源）」と「山（憩いの広場）」と「食（海の幸）」と「学（伝統・文化）」のまちづくりをキーワードに、『人が集まる牛深』を目指します。そして、この牛深地域への人の集まりから始まる賑わいを天草全域へ波及させます。

イ 基本方針及び基本施策

基本目標である「人が集まる牛深」を実現するには、牛深地域の魅力を内外に発信する仕組みとともに、地域の観光資源を活用した多様なプログラムの創出と、それを実践する体制づくりや地域住民の参画が不可欠です。

基本目標を具体的に進めるための基本方針及び基本施策を以下に設定します。

基本方針 1. 市民や来訪者が楽しめる賑わい空間の創造

牛深港（台場地区）やうしぶか海彩館周辺、遠見山周辺（鬼塚地区埋立地を含む）を、地域振興の拠点として、来訪者が海や山とふれあい、牛深の魅力を堪能できる施設機能（交流・物産販売の拠点、憩いの場）やサービスを充実させることにより、観光客等の増加を図り、牛深の賑わい創出を推進します。

また、併せて来訪者の宿泊体制の強化を推進します。

【基本施策】

基本施策 1：来訪者を楽しませる施設機能及びサービスの充実

基本施策 2：宿泊施設の誘致の推進

基本施策 3：憩いの広場づくり

基本方針 2. 天草市の南の玄関口としてのインフォメーション機能の強化

牛深地域の観光マップの作成・配布や、観光案内所を分かりやすい場所に設置し、牛深港周辺を起点とした観光PRを行うなど、インフォメーション機能を強化します。また、道の駅・海の駅としての利便性の向上などの機能を強化し、来訪者の満足度の向上及び滞在時間の延長に結び付けるとともに、牛深地域への人の集まりを天草全域へ波及させます。

さらに、まち歩きガイドによる港町の散策や、牛深のシンボルである牛深ハイヤ大橋を活用した各種イベント等の実施など、市民や地元団体の活動がしやすい環境づくりを促進し、来訪者の増加を図ります。

【基本施策】

基本施策 4：道の駅、海の駅の利便性向上とインフォメーション（ガイダンス）機能の充実

基本方針 3. 海を舞台とした人流・物流の拠点づくり

人流・物流・観光・商業を発展させるための拠点として、恵まれた海洋資源や自然景観を活かした観光、牛深ハイヤなどの伝統文化の情報発信を強化します。

また、企業等が行う水産資源が豊富な牛深の旬の地魚を使った料理の開発や、古くから伝わる郷土料理など、牛深ならではの食の目玉となる商品化を推進し、販売を促進するとともに牛深の新鮮な地魚の良さをまず食べて知ってもらうため、情報の発信を強化します。

【基本施策】

基本施策 5：人流・物流及び観光拠点施設の機能再編

基本施策 6：商業エリアとしての利活用推進

基本施策 7：水産資源と食文化の情報発信の強化

基本方針 4. だれもが気軽につどい学ぶ場所の創造

市民の交流・学びの場となる新たな交流拠点として、総合交流施設を整備します。

総合交流施設は、幅広い年代の住民が集うことによる地域住民の「交流・学びの拠点」として、人との出会いを通じた地域住民の楽しみや生きがいがづくり、本との出会いを通じた学び直しの場とするとともに、未来の天草市を担う子どもたちの、学力向上の場としての活用を図ります。

また、この施設に牛深ハイヤ節など、牛深が誇る歴史文化資料を展示することにより、市民のシビックプライドを確立し、市民はもとより観光客が牛深地域を学び交流を深めることができる場を構築します。

【基本施策】

基本施策 8：幅広い年代の住民がつどい、子どもたちの学びの場となる交流拠点の整備

基本施策 9：牛深ハイヤ節など、牛深が誇る歴史文化が分かるガイダンス機能の構築

基本方針 5. 良好な街並みの形成

市民の交流・憩いの場である既存施設の機能を見直し、利便性の向上を図ります。うしぶか海彩館から漁協跡地に至る湾岸を港町牛深らしさを体感し、散策を楽しむ場所として景観の整備を図ります。

また、中心市街地においては、近年の社会情勢から空き家・空き店舗が多くなっており、現状課題を整理し、空き家バンク制度等の普及を促進し移住定住に繋げるなど、かつて賑わいを見せた街並みの良好な形成に取り組みます。

【基本施策】

基本施策 10：港町らしい景観づくり

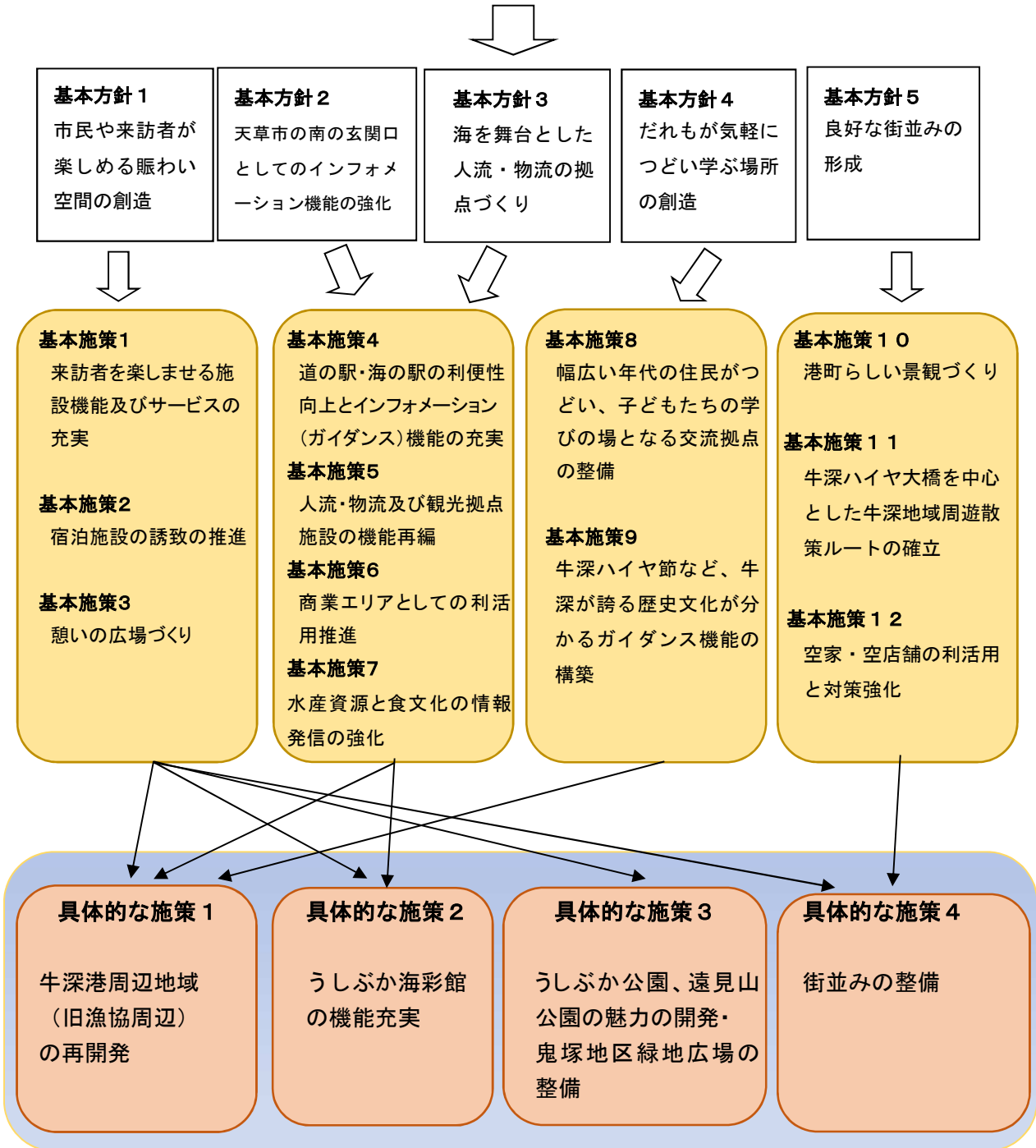
基本施策 11：牛深ハイヤ大橋を中心とした牛深地域周遊散策ルートの確立

基本施策 12：空家・空店舗の利活用と対策強化

【構想の体系図】

【基本目標】

天草市の南の玄関口に位置し、交通の結節点である牛深港周辺地区を交流や海洋文化の拠点として、また、もう一つの人が訪れる場所である遠見山周辺地区を人が集い安らぎを提供する空間として整備し、「海（海洋景観、海洋資源）」と「山（憩いの広場）」と「食（海の幸）」と「学（伝統・文化）」のまちづくりをキーワードに、『人が集まる牛深』を目指します。そして、この牛深地域への人の集まりから始まる賑わいを天草全域へ波及させます。



天草の南の玄関口から人が集まり、人流・物流が天草全域に広がる

2 具体的な展開施策

(1) 具体的な施策1「牛深港周辺地域（旧漁協周辺）の再開発」

【施策の概要・趣旨】

- 基本方針1. 市民や来訪者が楽しめる賑わい空間の創造
- 基本方針3. 海を舞台とした人流・物流の拠点づくり
- 基本方針4. だれもが気軽につどい学ぶ場所の創造

牛深町岡東区の旧漁協周辺は、牛深の基幹産業である水産業の基地としての漁協施設が後浜の新漁港に移転して以降、利活用はされていない状況にあります。しかし、うしぶか海彩館を起点とした漁港を周遊するルート上にあり、再開発により新たな事業の創造と雇用が生まれ、観光客のみならず、地元住民の利用が増えることによる経済効果が期待できる場所です。

このゾーンでは市民が気軽に利用できる空間及び楽しく学べる機能を有した場所と海のアクティビティでの誘客を行う機能や起業を考えている人に向けた取り組みを積極的に行うエリアとし、「海が見える」をキーワードとして「学び・交流」を目的とした牛深地域総合交流施設の整備及び民間事業者の出店や企業誘致を行うための区画整備を行います。

【主な取組内容】

◆牛深地域総合交流施設 ～牛深地域住民のサードプレイス～



牛深地域総合交流施設は、牛深地域の新たな交流拠点として、幅広い年代の住民が集うことによる地域住民の「学び・交流の場」としての機能を持たせることで、地域住民の楽しみや生きがいづくりに繋げるとともに、未来の天草市を担う子どもたちの、学力向上の場として活用を図ります。

また、この施設に牛深ハイヤ節など、牛深が誇る歴史文化資料を展示することにより、市民のシビックプライドを確立し、市民はもとより観光客が牛深地域を学び交流を深めることができる場を構築します。【基本施策6・7・8・9】

①交流スペース【開放感のある自由に利用できる場所】

- ・地域住民が日常的に自由に使えるスペースには、カフェを併設し、飲食可能な読書スペースを確保します。
- ・廃棄予定の本、みんなに読んでほしいと思う本を、個人が提供し、回し読みや持ち帰りが出来る図書「リユースコーナー」を設置します。
- ・囲碁・将棋など、ボードゲームの貸し出しや、貸し会議室を開放感のあるものとし、趣味の集まりや複数人での学習、会議などができる場所とします。
- ・フリーWi-Fiや調べ物をするための共用パソコンの設置などインターネット環境についても充実を図ります。

②多目的スペース【市民のニーズに幅広く対応できる場所】

・講演会や読み聞かせ、企画展などのイベントが開催できる場所としての活用ができるほか、現在、老朽化が進み、改修が必要な老人センターで行われている市民や各種団体が集える場所とします。

③こどもの遊び場【身体と頭を使って遊ぶことのできる場所】

・大人が過度に干渉せず、子どもたちが身体と頭を使って自由な発想で遊ぶことにより、子供たちの「創造力」・「見える力」・「工夫する力」を伸ばします。

④図書スペース【牛深地域の図書館機能の強化】

・学びの基礎となる図書スペースを確保し、教養を蓄える機会や想像力豊かな人材育成につながる機会として、天草市立牛深図書館を移設し「利用者の拡大」を図ります。

・ゆっくり本を読む時間を楽しんだり、勉強や仕事を集中して行ったりと利用者のニーズに応じた「閲覧スペース」を確保します。

・水産資源や日本一の生産を誇る「雑節」について学べるコーナーや魚食の普及を推進するコーナーを設置します。

⑤学びを楽しむ場【学びへのきっかけづくりの場所】

・学びへの興味のきっかけを作り、未来の天草を担う子どもたちの学力の向上を目的として、「子ども大学」と「サイエンススタジオ」を提案します。

◇子ども大学【子どもの疑問に専門家が優しく答える学びの場】

子どもの疑問に専門家が優しく答える学びの場です。この専門家というのは教授や講師だけでなく、地域の人や高校生なども専門家としてとらえます。

◇サイエンススタジオ【楽しみながら体験できる場所】

学びへの苦手意識を取り除くために、日常生活のささいな出来事や地域の現状に関連付けた理科の実験や科学体験を通して、理解することの楽しさ・大切さを感じ、能動的な学びを促す場です。

⑥歴史・文化継承の場【地域の歴史・文化の継承のための資料館】

・地域の歴史・民俗資料の「保存・活用」を目的として、現在、うしぶか海彩館で展示されている、牛深の歴史民俗を紹介する漁業展示館、軍艦長良展示室などの資料を移設し、牛深ハイヤ節・牛深地域の偉人「宇良田タダ」関係の、資料など牛深地域の歴史について、一か所で知ることができる資料館機能を付加します。



【施設イメージ】



◆ウォーターフロント整備 ～「海が見える」をキーワードに非日常を味わえるエリア～



港を中心として発展してきた牛深らしさを取り入れ、「海が見える」をキーワードに市民や来訪者が非日常を味わうための場所とし、民間事業者の出店や企業誘致を行うためのエリアとして区画整備を行い、行政と民間とが協力した賑わいの創出を推進します。【基本施策1・2・3・6】

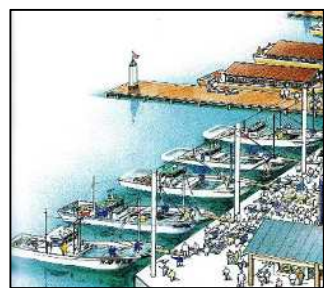
①企業誘致区画及びチャレンジスペース

- ・オートキャンプ場やホテルなどの企業誘致を行うスペースを確保します。
- ・コンテナショップなど新たに牛深地域で事業を開始したい事業者がチャレンジできるスペースを確保します。

②レジャースペース

- ・ヨットやプレジャーボートなど海からの来訪者の利便性向上のため、マリナースペースを確保します。
- ・安全で気軽に釣り体験できる釣りスペースを確保します。

【施設イメージ】



(2) 具体的な施策2「うしぶか海彩館の機能充実」

【施策の概要・趣旨】

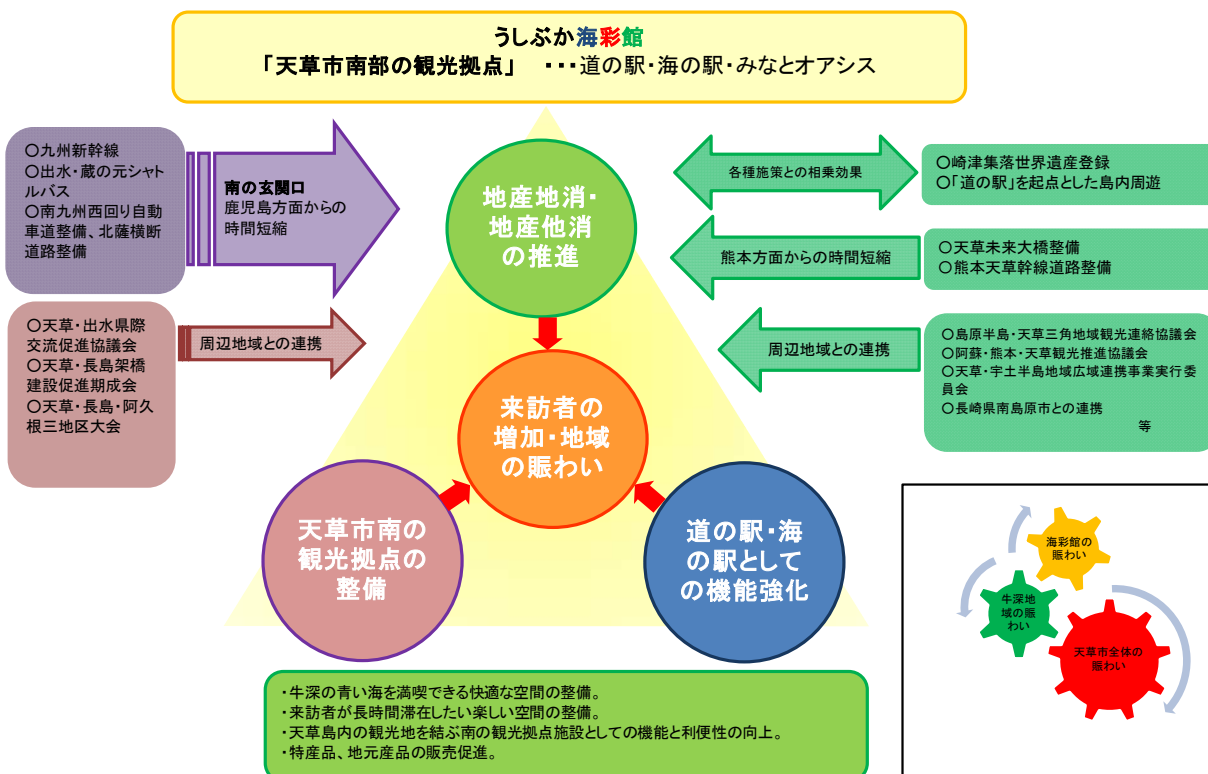
基本方針1. 市民や来訪者が楽しめる賑わい空間の創造

基本方針2. 天草市の南の玄関口としてのインフォメーション機能の強化

うしぶか海彩館は平成9年4月に開館。レストラン、物産販売、情報発信機能はもとより、交通ターミナル、フェリー発着場に併設し、道の駅、海の駅としても位置づけられており、天草市の南の玄関口として重要な交通結節点となっています。

併せて、天草市南部の観光拠点施設でもあることから、観光客の来訪を誘い、崎津がイダンスセンターやイルカセンターなど他拠点施設間の周遊を促すための情報発信機能の充実を図ります。また、来訪者の利便性や快適性を向上させ長時間滞在したくなるような、設備、機能の充実を図ります。

～活力と魅力に満ちた海洋都市づくりのシンボル～『天草市南部の観光拠点』



【主な取組み内容】

◆天草市の南の観光拠点整備【基本施策1・5】



～うしぶか海彩館を起点とした来訪者の滞在時間の延長～

①牛深地域の情報発信基地

・牛深海域公園のグラスボートやスキューバダイビングなどの海のアクティビティの紹介や、牛深の街並みを散策するための牛深観光ボランティアガイドの受付など、牛深地域で味わえる体験メニューの総合案内機能を充実し、牛深地域の各観光ポイント等への周遊を促します。

②施設機能の充実

・釣り客や長距離運転のドライバーなど、短時間で利用できる休憩スペースやシャワー施設を整備します。

・来訪者が増える週末、祭日においては、市の牛深支所駐車場を開放し、受け入れ態勢の充実を図ります。

③「うしぶかNanairo」プロジェクト

・地域住民等で組織される団体等により、秋からの牛深ハイヤ大橋のイルミネーションや冬の日本庭園のカラーライトアップが展開されていることから、「光」をテーマとした連携を行うことで年間を通じた誘客を図ります。



うしぶか海彩館の2階スペースを中心に開催された『2022 牛深サマーランタンフェスティバル』

◆道の駅・海の駅としての機能強化【基本施策4・5】



～うしぶか海彩館を起点とした島内周遊性の向上～

①インフォメーション機能の強化

・天草市南部の交通結節点で観光拠点でもあるうしぶか海彩館内において、天草市及び牛深地域の旬な情報をお届けできるよう、観光情報インフォメーション機能を強化します。

・交通結節点である道の駅、海の駅のうしぶか海彩館において、牛深地域を起点にした天草市南部の観光拠点施設として、来訪者が立ち寄りやすく、また、分かりやすい観光情報発信基地としての充実を図り、牛深地域や市内の各観光ポイント等への周遊を促します。

・みつばちラジオのサテライトスタジオを設置し、天草市の南の玄関口から地域情報をリアルタイムに発信すると共に、併せてYouTube、ネットラジオ等、民間団体や地域の小中高生が気軽に情報発信できるインターネット環境を整えます。

◆地産地消・地産他消の推進【基本施策7】



～地元の魚介類、農産品の消費拡大～

①直売所コーナーの充実

- ・地元でとれた、魚介類、農産品の直売コーナーの充実を図ることにより、地産地消・地産他消が拡大します。また、SNS等の活用による情報発信を強化することも重要です。

②施設の有効利活用

- ・体験工房やかまぼこ市場など、現在使用していないスペースを民間事業者への貸し出しを行うことで、消費の拡大につながります。
- ・うしぶか海彩館内にある牛深ハイヤ大橋下の広場は、地域住民等で組織される団体等が、地元で採れた農産物売る朝市やフリーマーケットにも活用できるスペースにすることを提案します。

(3) 具体的な施策3

「うしぶか公園・遠見山公園の魅力の開発・鬼塚地区緑地広場の整備」

【施策の概要・趣旨】

基本方針1. 市民や来訪者が楽しめる賑わい空間の創造

緑地公園及び牛深公園・遠見山周辺を市民及び来訪者の憩い・集いの場所として、牛深の自然を満喫し魅力を堪能するための環境づくりを推進します。

緑地広場は、牛深町鬼塚地区にある牛深グラウンド横の埋め立て地を指します。ここは、埋め立てが令和元年度に完了し、令和2年8月に地域住民20名で構成される牛深みらいづくり検討委員会から「牛深グラウンド横埋立地利活用に係る提案書」が提出された場所です。

この提案書をもとに、市民が日常利用できる憩いの広場として整備を行い、その後、市民提案による「市民で創る憩いの広場」として管理します。

これまででも多くの市民並びに観光客にご来訪いただいている遠見山公園、うしぶか公園の自然豊かな資源・施設等を「山・森林の憩いの拠点」として位置づけし、市民や観光客等が楽しめる賑わい空間として有効利活用し来訪者の増加を図ります。

【主な取組み内容】

◆うしぶか公園・遠見山公園の魅力創造

遠見山公園、うしぶか公園の自然豊かな資源・施設等を、市民や観光客等が楽しめる賑わい空間として有効利活用し市民提案によるイベントの実施などにより来訪者の増加を図ります。

【主な整備、取組み内容】

①敷地内の花木類の植栽管理

日本庭園内のしょうぶ、君子蘭、睡蓮そして遠見山山頂のすいせん、さらには敷地内の桜、梅、サルスベリなどの花木を適正に管理するとともに、駐車場等の公園案内看板で四季折々に見頃を迎える花木の情報を発信します。

②既存のアスレチック公園や遠見山の文化施設の活用

アスレチック公園は子育て世代がアウトドアを気軽に楽しめる場として、また、公園敷地内に存在する遠見番所跡等は牛深の歴史や文化に触れられる場所として情報発信を強化します。

③遠見山公園からの眺望を楽しむチェアリングスポットの整備

本市の観光促進事業であるチェアリングを遠見山でも気軽に安全に体験できる場所にします。

④イルミネーションイベントへの市民参加

令和3年から実施されている日本庭園イルミネーションイベントへの市民参加を呼びかけて、内容の充実や実施範囲の拡充を図り天草牛深の魅力を内外に発信します。

⑤民間団体等との協働による「うしぶか Nanairo プロジェクト」の事業展開。

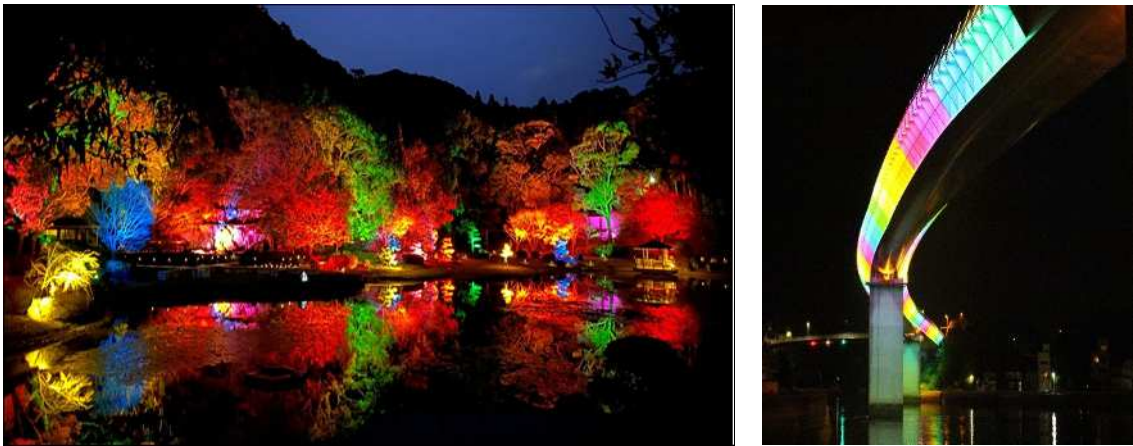
牛深地域全体を「光り」をテーマとしたまちづくりにより夜の来訪者の増加を図ります。
民間団体等から竹灯籠やモザイクアート等のアイデアを募り実施していただくなど新たな事業を展開します。【施策1・3】

【整備イメージ】

【日常】 遠見山公園の眺望等を眺めながらのチェアリングによる憩いの空間



【非日常】 イルミネーションイベント等による幻想的な空間の創造



◆緑地広場の整備

牛深町鬼塚地区にある牛深グラウンド横の埋め立て地の利活用については、市民提案による「市民で創る憩いの広場」として利活用を図ります。

【主な整備、取組み内容】

①緑地スペース

約26,000㎡という広大な敷地を活用し、市民が自由に使うことができ、ピクニックやウォーキング、地域コミュニティ活動などの憩いの緑地広場とします。

②駐車場、トイレ

利用者の利便性、快適性を考慮したうえで駐車場、トイレなど必要最小限の整備を行います。

③その他の施設

花木などの植樹やベンチの設置など広場の整備、利活用について市民からの提案を受け、ふるさと納税などで資金調達し市民参加型の公園づくりを進めます。

④持続可能な公園管理

市民提案による広場は、市民がつくり育てる広場として樹木の育成管理など住民が主体となり適正な維持管理を行う仕組みを構築します。

【基本施策1・3】



(4) 具体的な施策4 「街並みの整備」

【施策の概要・趣旨】

基本方針5. 良好な街並みの形成

平成23年11月25日に国土交通省から認定を受けた「九州みなとオアシス天草牛深」にふさわしいみなとまちづくりを目指し、地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に寄与する景観・環境づくりを推進します。

また、街なかの空き家、空き店舗の対策など良好な街並みの形成に向けた取り組みを強化します。

【主な取組の内容】

①みなと風情が感じられる景観づくり

- ・街なかの既存の花壇等を活用し、住民と協働して花木類の植栽を行い沿道の緑化を図ります。
- ・うしぶか海彩館から漁協跡地に至る湾岸を、港町牛深らしさを体感し散策を楽しむ場所として整備します。

②牛深ハイヤ大橋を中心とした牛深地域周遊ルートの確立

各ゾーン（リラックスゾーン、楽しむゾーン、歴史文化ゾーン）間の関係性を深め各施設や観光スポットへの周遊を促すため、うしぶか海彩館を起点とする周遊ルートを構築し、牛深地域及び本市への滞在時間の延長を図ります。

③空家・空店舗の利活用と対策強化

移住定住などの各種制度の普及を促進し、空き家の有効活用を図るとともに、良好な景観・環境づくりを推進します。

【基本施策9・10・11・12】

【施設イメージ】

